

## 令和3年度 第2回 岐阜県教育委員会教員育成協議会 議事概要

### 1 開催日時・場所

令和3年9月21日(火) 15:00~16:30

オンラインによるWEB会議

(岐阜県総合教育センター第1棟3階133研修室から配信)

### 2 協議事項

協議事項1 指標の改訂について(第1回協議会を踏まえた修正点について)

#### 【主な意見】

##### 〈特別支援教育の観点について〉

- 観点を、「特別支援教育」から「特別な配慮や支援を必要とする幼児児童生徒への対応」としたことはとてもよい。障がいのある幼児、児童及び生徒等への指導はもちろん、配慮や支援を必要とする子の学びにとって、何が一番適切かという観点で考えていくべきであり、そのような広い見識をもつ必要があると思う。今回の修正案は、そういった点も反映されており、意図がよく伝わる。
- 前回の「基礎形成期に『個別の指導計画作成』は難しいのではないか」という意見を受けて、「ユニバーサルデザイン」という観点で修正がなされていてよい。
- 今はニーズ教育と言われているが、スタートラインから資質向上期にかけて、一人一人の個性や障がいの特性等に目を向け、幅広く特別支援教育を捉えて、一貫して記述しているところがよい。
- スタートラインで合理的な配慮や対応の必要性を理解した上で、基礎形成期として個を見ながら全体を見ていこうとするバランス感覚やそういった感覚をもちながら授業をしていく実践力がとても大切であるので、今回の指標案は大変賛同できる。
- 資質貢献期は全校的な立場に立つ人たちだけでなく、担任の立場からも支援体制の構築や連携ができるのかということも考えていく必要がある。

##### 〈ICT活用指導力の観点について〉

- ICT活用には、教員が授業を行う時のICT活用という面と、ICTを活用して校務を効率化していくという両方の面を考えていく必要があるが、そのことについて、修正案にはよく盛り込まれている。
- 今回の修正案は、文言が柔らかく、読みやすくなっている。ICT活用指導力については、スタートラインの段階でセキュリティに関することや、個人情報の取扱いなどもきちんと理解していることが当然である。
- 現在各学校ではハイブリッド授業を行っているが、先生一人一人のスキルによって教育の効果が随分異なる。今、先生になった人が「資質貢献期」になったときに、時代の変化によって、ICTの活用のスキルだけでなく、考え方も全然違うものになっているかもしれない。今は、管理職も若い先生も同じ段階にいるが、そういったことも考えておく必要がある。
- ICTの活用は、単にICTを使うスキルということだけではない。ICTの変化に対応するにはいけないということも常に付きまっており、そのことが前提でこの指標がある。

- 資質貢献期には、新しいものにも積極的に取り組み、自分だけでなく組織全体のスキルの底上げにも貢献してほしいと思う。そのことが、「解決に向けて働きかけることができる」という言葉に込められている。

## 協議事項2 指標の活用、指標に基づく研修講座の構築について

### 【主な意見】

- キャリアステージの〇〇期という言葉は浸透してきたので、次は先生一人一人が指標を手掛かりに自らの学びを求めて成長しようとする事ができるように、管理職自身も指標について学び、うまく活用できるようにしていく必要がある。
- 管理職として先生方と面談する際、将来の自分をイメージするようにと話している。まず大切なのは、自分のキャリアをどう描くかという部分をしっかりもつこと、そしてそのキャリアを目指すためにも研修の必要性を先生方に考えてもらえるようにしている。
- 理想は、個々の教員が指標を見て将来自分がどうなりたいかを描いていくことであるが、一方で各学校の管理職が、人材育成という意味で指標を意識し、面談等において個々の先生にどのように話していくかということも大切である。つまり、個々の先生方が意識していくことと、管理職がより意識して個々の先生方に働きかけていくことの両方が必要である。
- 総合教育センターの研修講座一覧表を見ると、全ての校種とキャリアステージを対象とした研修がある。そうなるのとどの期でも受講できるが故に、実はこの研修は何が目的なのかが不明瞭になってしまう側面がないか懸念される。そこで、指標で見つかった課題を解決するためには、どの研修が最適なのが見えるとよい。管理職との面談の中でも、指標を見ながら「自分は学習指導が弱いので」という話になれば、次は研修講座一覧を見て「それならこの研修を受講しましょう」というように指標と研修講座一覧表がリンクされるとより効果的かと思う。
- 指標のスタートラインとは4月1日に教員になるまでに、ここまでの力を付けておいてほしいということなので、教員養成学部をもつ大学と指標を共有してほしい。また、研修計画も市町村教育委員会等とも共有することで、市町村教育委員会等の研修やOJTとなる校内での研修に生かされるとよい。
- 指標を整理して研修プログラムを分かりやすく伝える以上に、受講者のモチベーションをどのようにもたせ生かしていくか、また将来のイメージをどうもたせるかという根本的なところも考えていかないと、指標の活用や講座構築が技術的な整理で終わってしまうことになりかねないので留意したい。